

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：13902
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2017～2019
 課題番号：17K04856
 研究課題名(和文) グローバル化が加速する現代日常生活の保健衛生・安全に関する実験・実習教材の開発

 研究課題名(英文) Development of training teaching materials about health hygiene and safty in dairy life of globalization accelerates

 研究代表者
 青木 香保里 (AOKI, KAHORI)

 愛知教育大学・教育学部・教授

 研究者番号：00258683
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日常生活における保健衛生・安全に関する現代的課題を見通した教育内容・教育方法について、理論的・科学的に実践できる実験・実習教材の開発を行った。折しも2020年1月に発生した新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるい、パンデミックが宣言されるなか、日常生活で取り組むことができる事柄を学校教育・教員養成・教員研修において理解と実践に向けた取り組みの拡大と深化が重要となる。研究成果の還元・往還に努めたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 パンデミックが現実のものとなった現在、「日常生活における保健衛生・安全」を見通した内容・方法に関する認識と技能の形成は一層のこと重要な意味をもつに至っている。学校教育における「日常生活における保健衛生・安全」に関する教育内容は、教科教育や教科外教育に分散して存在しているものの、全体を見渡した系統性や総合性が十分に確立しているとはいえない。「日常生活における保健衛生・安全」を目的とした実践に向けた認識と技能の形成に資する実験・実習教材を結節点とすることで、「日常生活における保健衛生・安全」に関する系統性や総合性を担保する教育内容と教育方法が可能といえ、今回の研究成果はその提言になりうるといえる。

研究成果の概要(英文)：The education contents and the education technique which looked through the preservation of health hygiene and safty in daily life. The experiment and the training course which can be practiced scientifically have been developed. The new-style coronavirus which occurred in January, 2020 was on the rampage all over the world, and Pandemic was declared. An experiment, expansion of training teaching materials and deepening become important for understanding and practice in a school education, teacher education and in-service training of teachers. We'd like to make an effort toward return of study results and coming and going.

研究分野：教育方法学

キーワード：日常生活、グローバル化、保健衛生・安全、現代的課題、パンデミック、実験・実習教材、授業プログラム、研修プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

グローバル化や温暖化に伴う感染症の拡大が危惧され、巨大自然災害の発生時における水や火、道具や機器の取り扱い等、知識や技術の有無や程度の如何が、生命と生活の存続を左右しかねないことが近年指摘されている。

しかし、保健衛生や安全に関する現代的な課題を見通した教育内容・教育方法の実践的・総合的かつ具体的な提案は十分といえず、それらを構築することが喫緊の課題である。

2. 研究の目的

生命と生活のよりよい在り方を追究するうえで、保健衛生・安全に関する現代的な課題(例えば、グローバル化や温暖化に伴う感染症の拡大、巨大自然災害発生時における水や火、道具や機器の取り扱い等の知識や技術の有無や程度)を見通した教育内容・教育方法の創出は課題である。そこで、生活における保健衛生・安全に関する現代的な課題に関する最新の研究成果、および現職教員・教育委員会・教育センターの保健衛生・安全に関する意識や指導の実態調査をふまえ、アクティブ・ラーニングの形態をとる実験や実習に焦点をあて、保健衛生・安全に関する現代的な課題を見通した教育内容を背景とした保健衛生・安全の意識化・体系化・総合化を目指した実験・実習教材の開発を行い、リスクに向き合う「生きる力」を育む授業の提案を目的とした。

3. 研究の方法

まず、保健衛生・安全に関する先行研究および最新の研究成果の検討と教育内容・教育方法の創出に向けた考察を行うと共に、保健衛生・安全に関するエビデンスの考察を行った。次に、アクティブ・ラーニングとしての実験・実習授業に関する検討、および実験・実習教材の開発について検討した。また、現職教員、教育委員会や教育センター等の保健衛生・安全に関する意識や指導の実態調査を実施し、調査の結果と上述の事柄を関連づけた検討を行い、「現代的な課題を見通した実験・実習教材の開発と授業プログラムの提案」を行うこととした。

4. 研究成果

平成29年度は、保健衛生・安全に関する先行研究や最新の研究成果の検討を行った結果、「パンデミック」について基本となる概念の検討を行い、「パンデミック」の発生と拡大に係る教育内容について考察を行った。また、教育方法を検討するにあたっては、CDC ガイドライン(CDC:疾病予防管理センター; Centers for Disease Control and Prevention、アメリカ)を活用することにし、「手洗い」に着目し、「手洗い」に関する教育内容(「手洗い」の果たす役割に関する知識と「手洗い」の方法・技術)について検討を行った。現職教員を対象とした保健衛生・安全に関する意識や指導の実態と課題に関する調査を実施した結果、子どもたちの「手洗い」の関する知識および「手洗い」の方法・技術の習得は不十分であり、「手洗い」に関する意識が高いとはいえないことが明らかとなった。以上のことから、教員養成大学の在籍学生を対象とした日常生活における保健衛生・安全に関する現代的課題を見通した教育内容・教育方法の創出に向けた予備実験授業を実施(2回)し、予備実験授業の結果をもとに実験授業の修正に向けた検討を行った。これらの結果より、現代的課題となりつつある「パンデミック」と日常生活における「手洗い」を結びつけた、すなわち社会と個人の相互にとっての保健衛生・安全の構築のための基盤となる教育内容・教育方法の基本的方向が定まるとともに、「手洗い」に関する知識と技術の習得・定着を目指す授業プログラムの基本的骨格と全体構造が定まった。平成29年度の成果をもとに、教員養成大学における教員養成プログラム、現職教員向けの各種研修プログラムなどに反映していく見通しが立った。

平成30年度は、現職教員を対象とした保健衛生・安全に関する意識や指導の実態と課題をふまえた調査と研修を実施するとともに、日常生活における保健衛生・安全に関する現代的課題を見通した教育内容・教育方法の創出に向けた実験授業の実施を行った。この結果をもとに、教員養成大学における授業プログラム等や現職教員向けの各種研修プログラム等に結びつき、具体的な提案ができる見通しができた。

令和元年度は、保健衛生・安全に関する現代的課題に関する教育内容・教育方法の検討に基づき、教員養成大学における授業実践、および授業実践につながる各種の教員研修を実施した。折しも2020年1月に発生した新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるい、パンデミックが宣言されるなか、日常生活で取り組むことができる事柄を学校教育・教員養成・教員研修等における認識の形成と実践に向けた取り組みに結びつけ、拡大と深化が重要となっている。「保健衛生・安全に関する現代的課題」の解決に向けた認識と技能の習得・定着・応用は、今後より一層の多様化と深刻化の展開が予見される「保健衛生・安全に関する現代的課題」に対する考察および実践をするための土台となる。引き続き、研究成果の還元・往還に努め、研究の成果に基づく改善をすすめていくことが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 青井美津穂・青木香保里	4. 巻 48
2. 論文標題 家庭科教育の視点からみる参加型学校トイレづくりの現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学家政教育講座研究紀要	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里	4. 巻 30
2. 論文標題 三河教育研究会技術・家庭部会 指導・講評	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三河教育研究会 平成30年度 研究のまとめ	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里	4. 巻 30
2. 論文標題 日常生活を学ぶ家庭科	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡崎の教育	6. 最初と最後の頁 73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里	4. 巻 31
2. 論文標題 家庭科教員養成に関する変遷と現状	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教育大学協会全国家庭科部門大会報告書	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村結美・青木香保里・日景弥生	4. 巻 18
2. 論文標題 衣生活を支える基盤となる学習内容の検討 - 大学生と親世代の有用感と期待感 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北家庭科教育研究	6. 最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里・志村結美・日景弥生	4. 巻 32
2. 論文標題 学部教育における教師力の基盤形成を目指した教育実習に関する指導プログラムの検討と課題 (第2報) - 学習指導案の作成に焦点をあてた指導 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育実習研究	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日景弥生、青木香保里、志村結美	4. 巻 60
2. 論文標題 中学校において家庭科を担当している臨時免許状教員の意識と実態 - 普通免許状保有教員との比較から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 125-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日景弥生、青木香保里、志村結美	4. 巻 17
2. 論文標題 教員養成系学生を対象とした教師力向上の試み - 繰り返し授業の効果 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東北家庭科教育研究	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里	4. 巻 58
2. 論文標題 単元を基礎とした教育内容を構想する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡崎の教育	6. 最初と最後の頁 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村結美、青木香保里、日景弥生	4. 巻 17
2. 論文標題 食生活を支える基盤となる学習内容の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東北家庭科教育研究	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一	4. 巻 48
2. 論文標題 教科における学力と主体形成 -社会科教育にかかわる記述から-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一、平岡祥孝、加藤裕明	4. 巻 6
2. 論文標題 経済学分野における知見を基礎とした「地域教材」の活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 札幌大谷大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤裕明、荒井眞一	4. 巻 6
2. 論文標題 新教育課程に向けた総合学習の教材及び教育内容に関する検討 - 「キャリア教育」の課題をふまえて-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 札幌大谷大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日景弥生、青木香保里、志村結美	4. 巻 62
2. 論文標題 中学校の家庭分野を担当する免許外教員に対する研修の実態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 170-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田結衣、青木香保里	4. 巻 49
2. 論文標題 食品購入における食品ロス削減の方法と授業実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学家政教育講座紀要	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木香保里、志村結美、日景弥生	4. 巻 33
2. 論文標題 学部教育における教師力の基盤形成を目指した教育実習に関する指導プログラムの検討と課題(第3報) - 学習指導案の構造理解と指導案の作成 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育実習研究	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村結美、青木香保里、日景弥生	4. 巻 33
2. 論文標題 家庭科教員の養成と専門性向上に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2019年度第32回日本教育大学協会全国家庭科部門大会報告書	6. 最初と最後の頁 53-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一	4. 巻 48
2. 論文標題 教科における学力と主体形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 札幌大谷大学紀要	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一	4. 巻 49
2. 論文標題 科学的な社会認識の内容に関する基礎的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 札幌大谷大学紀要	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一、船津悠斗	4. 巻 7
2. 論文標題 社会的な意識形成を狙いとする社会科「学力」論の基礎的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 札幌大谷大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒井眞一	4. 巻 39
2. 論文標題 学問研究成果を踏まえた教育内容に内在する主体形成への契機	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会会報	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 青木香保里・志村結美・日景弥生
2. 発表標題 教科内容と教職内容の接続をめざした教科教育法の授業実践
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第61回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日景弥生・志村結美・青木香保里
2. 発表標題 中学校家庭科担当教員に対する研修の実態 - 免許外教員を中心に -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第61回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日景弥生・青木香保里・志村結美
2. 発表標題 教員の資質・能力を育む研修の実態 - 中学校家庭科担当免許外教員を中心に -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区会第40回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里・志村結美・日景弥生
2. 発表標題 初めての長期にわたる教育実習に向けた学習指導案（家庭科）作成の指導
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第61回大会東北地区会第40回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志村結美・日景弥生・青木香保里
2. 発表標題 衣生活を支える基盤となる学習内容の検討 - 大学生の親世代の有用感と期待感の分析から -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第61回大会東北地区会第40回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里・志村結美・日景弥生
2. 発表標題 学部教育における教師力の基盤形成を目指した教育実習に関する指導プログラムの検討と課題（第2報）- 学習指導案の作成に焦点をあてた指導 -
3. 学会等名 日本教育大学協会教育実習研究部門研究協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里・志村結美・日景弥生
2. 発表標題 「連携」を意識した教科教育法（家庭科）の授業実践
3. 学会等名 日本教育大学協会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里・志村結美・木村紀子・日景弥生
2. 発表標題 家庭科に関する研修をめぐる事例検討と課題
3. 学会等名 日本家庭科教育学会2018年度例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里
2. 発表標題 家庭科教員養成に関する変遷と現状
3. 学会等名 第31回日本教育大学協会全国家庭科部門大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 家庭科における「専門」に関する検討
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第60回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 家庭科における「専門」とは何か - 家庭科における教育職員免許法・教員養成・研修の各変遷の検討から -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区第40回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 食品表示にみる脂質の取り扱いに関する検討 - 日本および諸外国の比較と家庭科教科書
3. 学会等名 日本家政学会第69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木香保里、荒井眞一
2. 発表標題 教育実習事前指導プログラムの改善と学生の変容
3. 学会等名 日本教師教育学会第27回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 教科内容と教職内容をつなぐ教科教育法（家庭科教育）の授業実践
3. 学会等名 平成29年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日景弥生、青木香保里、志村結美
2. 発表標題 教育実習における教師としての資質能力の変容
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第60回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日景弥生、青木香保里、志村結美
2. 発表標題 教員養成系学生を対象とした教師力向上の試み
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区第40回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志村結美、青木香保里、日景弥生
2. 発表標題 食生活を支える基盤となる学習内容の検討
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区第40回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村紀子、青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 都道府県における家庭科教員研修に関する調査 - 調査の目的と全体像
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第62回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生、木村紀子
2. 発表標題 都道府県における家庭科教員研修に関する調査 - 指導主事からみる研修観
3. 学会等名 日本家庭科教育学会第62回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生、木村紀子
2. 発表標題 家庭科教員研修に関する実態と課題
3. 学会等名 日本家庭科教育学会2019年度例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、日景弥生
2. 発表標題 学部教育における教師力の基盤形成を目指した教育実習に関する指導プログラムの検討と課題（第3報） - 学習指導案の構造理解と指導案の作成 -
3. 学会等名 日本教育大学協会全国教育実習研究部門第33回研究協議会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村結美、木村紀子、青木香保里、日景弥生
2. 発表標題 都道府県における家庭科教員研修に関する調査 - 教科研修を中心に -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木香保里、志村結美、木村紀子、日景弥生
2. 発表標題 「授業構想と指導案」の関係理解を目指した教科教育法（家庭科）の実践
3. 学会等名 日本家庭科教育学会東北地区会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒井眞一
2. 発表標題 学問研究成果を踏まえた教育内容に内在する主体形成への契機
3. 学会等名 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 青木香保里	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アドバンテージサーバー	5. 総ページ数 104
3. 書名 検証 新学習指導要領 - ゆたかな学びの創造にむけて -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 眞一 (ARAI Shinichi) (80552877)	札幌大谷大学・社会学部・教授 (30125)	
研究分担者	吾妻 知美 (ADUMA Tomomi) (90295387)	京都府立医科大学・医学部・教授 (24303)	